

In other words, / food is moving around more than ever, / and the environmental **impact** could be huge.

言い換え

We're now putting more energy into **transporting** some **crops** / than we get out of eating them.

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. During the protest, more than 90% of petrol stations ran dry because people bought oil in panic. ()
2. The international food trade is likely to have a big impact on the environment. ()
3. A great part of Britain's apple orchards have been destroyed and most of the apples eaten in Britain are bought from abroad. ()

覚えておきたい表現

分詞構文 Inspired by ~ 「～に触発されて」

ℓ.2 : **Inspired by** similar actions in France, a group of farmers and lorry drivers decided to blockade the Stanlow oil refinery in Cheshire. 「フランスにおける同じような行動に触発されて、農場経営者とトラック運転手らのグループが、チェシャー州のスタンロー石油精製所を封鎖することを決断した。」

・Inspired by ~ : 接続詞と主語が省略された形で「～に触発されて」と訳す。この場合、Inspired by ... の部分は原因(…のために)とも時(…の時)ともとれる。省略されている箇所を補うと、Because [When] they (= a group of farmers and lorry drivers) were inspired ... のようになる。

S+see ~ 「(時代などが) ~を目撃する; ~が起こる」

ℓ.5 : Panic buying **saw** more than 90 per cent of petrol stations run dry. 「パニック買いにより、90パーセントを超えるガソリンスタンドが干上がった。」

・Panic buying saw ~ : see は、無生物(=時代など)を主語として、「～を目撃する; ~が起こる」という意味を表す。また see は知覚動詞で、see + O + C の形をとる。C には原形・現在分詞・過去分詞がくる。

Ex. Sunday **saw** my brother sleeping all day. 「日曜日には兄は一日中寝ていた。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

① 食物輸送への依存度を示す出来事

燃料価格に対する抗議行動：農場経営者とトラック運転手が石油精製所を封鎖。

→ ガソリンタンカーが石油精製所を出港できなくなる。→ パニック買いが起こり、ガソリンスタンドの90%以上ではガソリンがなくなる。→ 供給が届かないため、スーパーマーケットの棚が空になった。

② 現状1：ますます多くの食物が輸送に依存

◆ ℓ.10 **in other words** 「言い換えれば：言い換え」

輸送による環境に対する影響は巨大なはず。

③ 現状2：農産物を食べることで得られるエネルギー以上のエネルギーを輸送で消費

- ・イギリスがリンゴを育てるのにきわめて適した気候であるのに、消費量の4分の3を輸入している。
- ・アメリカの西海岸からイギリスに輸入されるレタスの1カロリー分に対し、127カロリーの燃料が使われている。

背景知識

● 農業分野の自由貿易促進の是非

WTO (国際貿易機関: World Trade Organization) は2001年に一般にドーハ開発ラウンド(正式名称はドーハ開発アジェンダ)と呼ばれる多国間の貿易壁を取り除くことを目的とした国際会議を開始した。しかし、ここでは先進国と開発途上国間で議論がたびたび決裂し、会議の場を移し時を経ても同様の決裂が繰り返される状態となっている。決裂の問題となっているのは多岐の分野にわたり、フードマイレージ(52参照)に連なる考え方を含む農業分野の貿易自由化を促進するかどうかという問題も含まれる。これについて、少し詳しく追ってみることとしよう。

農業分野の貿易自由化問題では大きく分けて2つの立場が対立する構造となっている。自由貿易を促進させたいとする輸出国の立場と、国内農業保護を重視し自由化に反対する国の立場の対立である。

環境保護、特にフードマイレージの観点に立って見ると、自由貿易は農業作物の輸出入を促進するという意味で環境保護を後退させるものである。したがって、この点では、貿易自由化反対の立場に軍配は挙がると言えるだろう。

しかし、環境保護だけを私たちは賛否の根拠とすることはできない。環境問題以外にも深刻な貧困問題があり、それを国際的にも解消する上で、貿易の自由化は否定できないとする考え方もある。それによれば、例えば開発途上国などの農業従事者が貿易の自由化によって期待できることとして、彼らの実質所得が国内での自給自足による所得よりも増加することが挙げられる。世界の貧困問題を解消する立場に立てば、農業分野の自由貿易促進は是非とも賛成すべきものとなり、むしろ先進国の国内農業保護政策はその阻害要因ともなるのである。貿易自由化問題1つをとっても環境保護だけを根拠に反対することは難しい。

深めたい人に：石見徹『グローバル資本主義を考える』(ミネルヴァ書房、2007年)、エリック・ミルストーン、ティム・ラング著、大賀圭治監訳、中山里美、高田直也訳『食料の世界地図』(丸善、2005年)